



冬の静けさをクラシックと♪

『愛の夢とか』川上 未映子

たーん、たん、たんの曲(スタッフ・I)

音楽を読む

鍵盤の魔術師ことフランツ・リストの代表的な作品『愛の夢』。元々、歌曲として書かれていた3つの曲を1850年に作曲家自身がピアノ独奏版に編曲し「愛の夢-3つの夜想曲」として出版したもので、特に、第3番が有名です。フィギュアスケートの浅田真央選手の演技で聞き覚えがある方も多いのではないのでしょうか。

川上未映子の『愛の夢とか』は、全7編からなる短編小説で、表題作「愛の夢とか」では、リストの『愛の夢』の音色に誘われて始まった女同士の交流が描かれています。『愛の夢』第3番の「おお、愛しうる限り愛せ」から始まる詩が、恋愛に限らずもっと壮大な愛について謳われているのと同様に、本書も単なる甘い恋愛小説ではなく、何気ない日常が揺らいで光を放つ瞬間を捉えて、美しい言葉で綴っています。作者の多彩な魅力が詰まった一冊を、世界中の人から今なお愛される『愛の夢』を聴きながら堪能してみたいかがでしょうか。



『愛の夢とか』川上 未映子

出版社：講談社
請求記号：913.6カ/B913.6カ
駅南図書館所蔵あり

ナクソスに
ログインして
アクセス!



ロマン派の伝統を受け継ぎ、19世紀の名技主義の生き証人といわれた巨匠ホルヘ・ボレットは、リストの孫弟子でもあります。彼の演奏スタイルは晩年に至ってますますその名技性を発揮しました。甘美な旋律と深い情感が込められたボレットの名演は、もちろんナクソスで聴くことができます。

クラシックにふれよう

シューベルト ピアノソナタ19番 (スタッフ・O)

シューベルト最晩年のピアノソナタ19番はシューベルトの最高傑作のひとつに数えられる作品のひとつ。晩年のシューベルトの個性豊かな響きが充実した名作です。19番を含む最晩年に作曲された3つのソナタ(19番、20番、21番)はどれもベートーヴェンの影響を感じさせる構造を持っていますが、それぞれに完成された美しい作品です。

19番は力強い和音にはじまり、ベートーヴェンへの敬愛の念がとくに強く感じられるといわれています。第1楽章は重厚でありながら軽やかさもあり、第2楽章はベートーヴェンの悲愴ソナタの中間楽章に似た楽章と言われていますが、自由な転調はロマン派の和声を備えています。また静かにしみる美しい主題の調べがシューベルトらしさにあふれた楽章です。軽快・華麗な雰囲気を感じさせながら第3楽章で力強く曲が終わりを迎えます。静けさに浸りたいときにふと聴きたくなるしみじみとした味わいのピアノソナタです。



ナクソスに
ログインしてアクセス!



演奏家によって異なる、曲の解釈を聴き比べて楽しむことができるのがナクソスならではのですね。合わせてヴェートーベンのピアノソナタと聴き比べていただくとより深い趣が味わえるかもしれませんね。

音楽の都・ウィーンでの忘れられない思い出 (スタッフ・N)

音楽とわたし

編集担当のひとこと

子どもの頃、オーストリアのウィーンを訪れたときのこと。街角で人だかりを見つけて、近寄ってみると、輪の中心にはヴァイオリンを手にした男性の姿があった。父にストリートミュージシャンだと教えてもらったが、「ヴァイオリン＝クラシック」というイメージしかなかった幼い私は、サングラスをかけて革ジャンを羽織ったロックシンガーのような出で立ちの彼に対して「この人は本当にヴァイオリンが弾けるの?」と懐疑的だった。男性はギャラリーを見渡すと、スピーカーでポップス調の曲を流し、それに合わせて巧みにヴァイオリンを弾き始めた。周りの人たちは歌ったり、リズムに乗って体を揺らしたりしはじめ、私も言葉が分からないのにだんだん楽しくなってきた。最後には知らない人たちと一緒に歓声を上げ、手を叩いて大喜びしたのを今でも覚えている。音楽にはジャンルもことばの壁も超えて人を幸せにする力があることを教えてもらった、奇跡のような音楽体験だった。



新しい年を迎え、新しい目標や計画を立てた方もいらっしゃるでしょうか。じっくりとまだ深く聴いたことのない音楽を聴いてみるのもいいですね。ナクソスなら気軽に様々なクラシックの名曲をお聴きいただけます。是非ご利用ください。長く寒い冬を越えて新しい季節を心待ちにしながらクラシックとともにゆっくりお過ごしください。(O)